

第 15 回 ソフトウェアファクトリ研究会開催のお知らせ

標題:クラウド時代へ向うソフトウェアファクトリ

日時:2009-10-27 (火) 14:30-18:30

場所:マイクロソフト新宿本社(〒151-8583 東京都渋谷区代々木 2-2-1 小田急サザンタワー) <http://www.microsoft.com/japan/mscorp/branch/ost.mspx>

開催趣旨: 昨今、データセンタから提供されるクラウド化された SaaS, PaaS, IaaS の登場は、1960 年代から 1980 年代へかけての、大型汎用計算機によるソフトウェアファクトリ支援への回帰を連想させます。前世紀末からパソコン中心となったソフトウェアファクトリとその支援環境は、バベルの塔を廻る軌跡のように、パソコン中心から離れ、再び共有支援環境を求めて進化するものと考えられます。今回の研究会では、クラウドによるソフトウェア支援に潜むリスク因子および選好因子について展望し、今後の課題を議論したいと考えます。

講演:

1. クラウドによるソフトウェアファクトリ支援 (60 分)

(松本 吉弘 ソフトウェアファクトリ研究会)

垂直思考(ウォーターフォール)から水平思考(ビューポイント協働)への転換をベースにする新しいソフトウェア・ライフサイクルモデルにおいて、クラウドのなかのノードとしてなにを割りつけるのが適当か、について考えます。

予稿はつぎの URL からダウンロードできます。

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~y-h-m/SoftwareFactory-as-a-Cloud.pdf>

休憩 (10 分)

2. クラウドのアプリケーション開発へのソフトウェアファクトリ適用 (90 分)

(萩原 正義 マイクロソフト株式会社・デベロッパー&プラットフォーム統括本部アーキテクト)

梗概: クラウドのアプリケーション開発上の制約、クラウドのアプリケーション開発手順の概要を説明します。次に、クラウドの大規模、複雑な開発の解決のためのソフトウェアファクトリの適用方法、問題点、解決法について検討します。

予稿はつぎの URL からダウンロードできます。

<http://blogs.msdn.com/masayh/archive/2009/09/28/9900253.aspx>

休憩 (10 分)

3. クラウドによって支援環境はどのように変わるか (60 分)

(南 悦郎 新日鉄ソリューションズ株式会社・技術本部 システム研究開発センター所長)

梗概: ソフトウェア開発支援環境におけるクラウドの活用をターゲットとして、ソフトウェア開発における標準化やソフトウェアファクトリ(プロダクトライン)の考え方とクラウドとの関連をベースに、ビジネスとテクニカル面の双方の観点から今後の方向性や課題を議論します。

予稿は当日配布します。

質疑応答 (10 分)

■ 参加費： 1,000 円（当日、会場で現金を、領収書と引き換えにてお支払いください。）

■ 参加申し込み方法：

以下の3項目を、 akiko@astem.or.jp までにお送りください。

- ・出席者氏名
- ・所属企業名
- ・領収書に記載する参加費支払者名

参加申し込み期限： 2009-10-21

■ 募集人員（先着 70 名） 会場の大きさのため。

■ 主催者：ソフトウェアファクトリ研究会 (<http://www.astem.or.jp/SFSG/>)

■ 事務局： 財団法人 京都高度技術研究所 研究部 (akiko@astem.or.jp)

今回の研究会に限らず、ソフトウェアファクトリ研究会に会員としての加入を希望される方は、下記の方法でお申し込みください。

ソフトウェアファクトリ研究会・会員申し込み方法：

- ◆ 申し込み受付サイト https://www.astem.or.jp/sf_workshop.html に、必要事項を記入して、送信してください。申し込みは、各回研究会を通じて、一度で結構です。研究会開催のつど、申し込む必要はありません。
- ◆ 申し込みのための費用、および会費は、無料です。当研究会が主催するセミナーなどのイベントおよび懇親会などに対しては、別途に取り決めます。
- ◆ 主催： 京都高度技術研究所 (<http://www.astem.or.jp/>)
事務担当部門： 同研究部 akiko@astem.or.jp
 - ◇ 代表者 松本 吉弘（京都高度技術研究所）
 - ◇ 幹事 8名（研究会会員からの互選）

参考資料：

1. 新しく生まれたソフトウェアファクトリの例については、日経 SYSTEMS、2006年9月、特集3をご覧ください。
2. 「最近のソフトウェアファクトリ論」については、独立行政法人・情報処理推進機構が発行のした SEC journal, Vol.7, pp.40-49（松本吉弘著）、2006年9月発行をご覧ください。
3. 松本 吉弘のプロフィール <http://www5d.biglobe.ne.jp/~y-h-m/yhmintrol.htm>

1954年東京大学工学部電気工学科卒業、1985年株式会社・東芝・理事、1989年京都大学大学院工学研究科／工学部情報工学科教授、この間、財団法人・京都高度技術研究所副理事長兼所長、京都大学を定年退官後、大阪工業大学情報

科学部教授、武蔵工業大学(現・東京都市大学)工学部電子情報工学科教授、ドイツ・シュツットガルト大学・情報科学部客員教授、現在、財団法人・京都高度技術研究所顧問、工学博士(東京大学)、IEEE Life Fellow、1970-80年代に、東芝・府中事業所、ABB社、シーメンス社などの大規模ソフトウェア工場の企画・発足に貢献、以来、ソフトウェアエンジニアリング、ソフトウェア開発・保守マネジメントのあり方について研究を続けている。1980年代には、ミシガン大学、カリフォルニア大学バークレー校、カーネギメロン大学などで、ソフトウェアファクトリの特別講義を担当。